

第2学年1組 社会科指導案

1 単元名 産業の発達と幕府政治の動き

2 単元の目標

- (1) 社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想などをもとに，幕府の政治が次第に行き詰まりを見せることを理解している。(知識及び技能)
- (2) 産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化に着目して，相互に関連付けて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察して，表現している。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 産業の発達と町民文化，幕府政治の展開について，主体的に追究，解決しようとしている。(学びに向かう力・人間性等)

3 単元構成の意図

生徒は，小学校の時に江戸中期の文化を中心に学習しているが，江戸の三大改革を詳しく学んでいない。中学校では，改革の内容ばかりではなく，貨幣経済の浸透や都市の発達などの社会の変化も関連付けて学習では，課題追究をする中で事実や背景を関連付けることが必要である。また，難しい用語や内容もあるので，教師がその用語や内容を解説したうえで考えさせることも必要である。

本単元では，徳川綱吉以後の幕府の政治がうまくいかなかった要因として，民衆が力をつけてきたことや貨幣経済の浸透，天災が続くことなどの社会の状況と関連付けて学ばせることで，多面的・多角的に考える力を身に付けさせたい。また，民衆の力がついてきたことにより，新しい文化ができていく様子を調べ，視点を与えることで社会的な見方や考え方も身に付けさせたい。

江戸初期は，幕府に財政的余裕があり，様々な身分を支配するだけの力があつた。戦がない平和な時代が訪れると諸産業も発展し，隅々まで貨幣経済が浸透していく中で，徳川綱吉の政治をきっかけに物価が上昇し，幕府の財政も厳しくなっていく。幕政改革を行うが，民衆の成長や天災，外国の脅威など，時代の変化もあり，改革がうまくいかない状況となった。現代社会においても，少子高齢化，自然災害の増加，さらにグローバル化の進展もあり，財政が厳しい状況にあるという点で類似しているため，事実やその背景にある事柄に着目させて内容を関連付けさせながら学習することにより，自分のことと捉えながら考えさせたい。

4 単元の学習計画 (6/9)

時間	場面	学習活動 (夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	見通す 考える	江戸中期の人々の生活はどのように変わっていくか予想している。 農具の進歩が農村をどのように変えていったかを考えている。	武士，百姓，町人などの立場から予想している。(態) 各地に特産物が見られる要因を農業の進歩と関連付けて考えている。(思・判・表)
2	調べる 対話する	三都の特徴を調べている。 なぜ，交通網が発達したかを考えている。	交通網の発達の理由を都市や商工業の発達と関連付けて説明している。(思・判・表)
3	調べる 対話する	徳川綱吉の行った政治のあと，社会がどのように変わっていったかを話し合っている。 元禄文化の特徴を調べている。	綱吉後の幕府の政治的課題を捉えている。(思・判・表) 元禄文化の特色を理解している。(知・理)
4	調べる 対話する	享保の改革の内容を調べ，評価している。	享保の改革の内容を理解している。(知・理)
5	考える 対話する	話し合いを通じて，一揆や打ちこわしが増えていった理由を多角的・多面的に考えている。	貨幣経済の浸透がなぜ百姓にとって厳しかったか，説明している。(思・判・表)
6 本時	考える 対話する	田沼の政治と寛政の改革を評価し，長続きしなかった理由を考えている。	田沼の政治と寛政の改革の内容を評価し多面的・多角的に結果を考察している。(思・判・表)
7	考える 対話する	大塩の乱や外国船の出現は幕府政治にどのような影響を与えたか資料をもとに考えている。	大塩の乱や外国船の出現が幕府にどのような影響を与えたか，天保の改革と関連付けて説明している。(思・判・表)

8	調べる 考える	タブレットを使い、化政文化期の学問や文化を調べている。 教育の普及など、社会の変化との関わりを考えている。	社会の変化の中で発展した学問や作品について意欲的に調べている。(態)
9	振り返る	幕府の政治改革と社会の変化のイメージマップを作り、整理している。	社会の変化と幕府の政治改革を関連付けて、時代全体を説明している。(思・判・表)



単元を通して育成したい生徒の姿
江戸中期の社会について、政治・社会・文化の出来事や背景などを関連付けながら説明することができる。

5 本時における社会の見方・考え方を働かせた学びの姿

- 資料をもとに、改革の内容とその時代の出来事等を関連付け、考えの根拠を見つけながら課題を追究する姿。

6 本時の研究の視点

【見方・考え方を働かせながら学びを自分ごととしてとらえる指導の工夫】

- 財政再建の視点から、改革の内容について根拠をもとに評価する。

【学びの連続性につながる振り返り】

- 田沼の政治と寛政の改革の内容と結果を再考し、社会の変化と関連付けて説明することができる。

7 本時のねらい

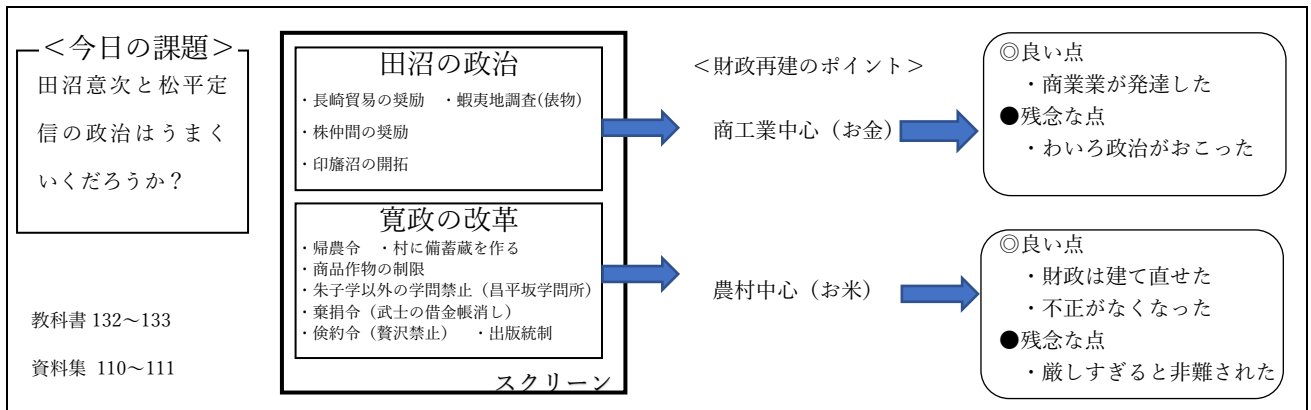
- 田沼の政治と寛政の改革について、事実と背景を関連させながら考える学習を通して、その改革が長続きしなかったことについて、多面的・多角的に結果を考察することができる。

8 学習過程

段階	学習内容・活動(形態)	時間	○教師の支援 ※評価(方法)
課題設定	1 課題を把握する(一斉) (1)享保の改革の内容と結果を確認する。 (2)絵から本時で学習する人物を確認する。	7 (2)	○ フラッシュ・スライドを用いて、享保の改革で財政再建がテーマであることを確認する。 ○ 教科書の人物画をスライドで表示する。
	田沼意次と松平定信が行った政治はうまくいっただろうか？	(3)	○ 見通しをもって学習に取り組むことができるよう、授業の流れを提示し内容を焦点化する。
課題解決	2 課題を解決する。(小集団・一斉) (1)それぞれが行った政治内容を調べ、評価する。	3 3 (10)	○ 3名程度の小集団で活動させることで意見をもちながら学習活動を進めさせる。 ○ 改革の内容を分類したワークシートを使用することで思考を整理することができるようにする。
	(2)それぞれの政治の良い点と評価が悪かった点を予想する。 <田沼の政治>・・・商工業中心(お金) 良い点 ・商工業が発達した ・世の中が活発になった 評価が悪かった点 ・わいろ政治が起こった <寛政の改革>・・・農村中心(お米) 良い点 ・財政は立ち直った ・不正がなくなった 評価が悪かった点 ・急に厳しくなり不満	(8)	○ 改革の内容を資料集や教科書で調べ、改革の効果はあった点や評判が悪かった点についての根拠を明確にさせて考えさせる。 ※ 改革の内容を理解し、根拠をもって評価しているか。(記述)
	(3)調べたり評価したりした内容や結果を全体で確認する。	(8)	○ 各班の評価がわかるよう、電子黒板で可視化する。

振り 返り	<p>(4)改革の結果の原因を別の角度から考える。 (予想される反応) ○浅間山が噴火した。○飢饉が起こった ○お金は入ってきたが、使ってしまった。 ○百姓一揆や打ちこわしが多くなった。</p> <p>3 本時のまとめをする(個人) (1)田沼の政治と寛政の改革の結果とその要因を個人でプリントに記入する。 (2)発表する。</p>	<p>(7)</p> <p>10 (7) (3)</p>	<p>○ 今まで学習した社会の動き(既習事項)や災害年表(資料集)に注目させる。</p> <p>※ 既習した社会の変化と関連付けて説明できているか。(記述)</p> <p>○ 記入したものを写真にとってメタモジにはりつけさせる。 ○ 数名の生徒のまとめを電子モニターで表示しながら発表させる。</p>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

9 板書計画



生徒のまとめ
(テレビモニター)